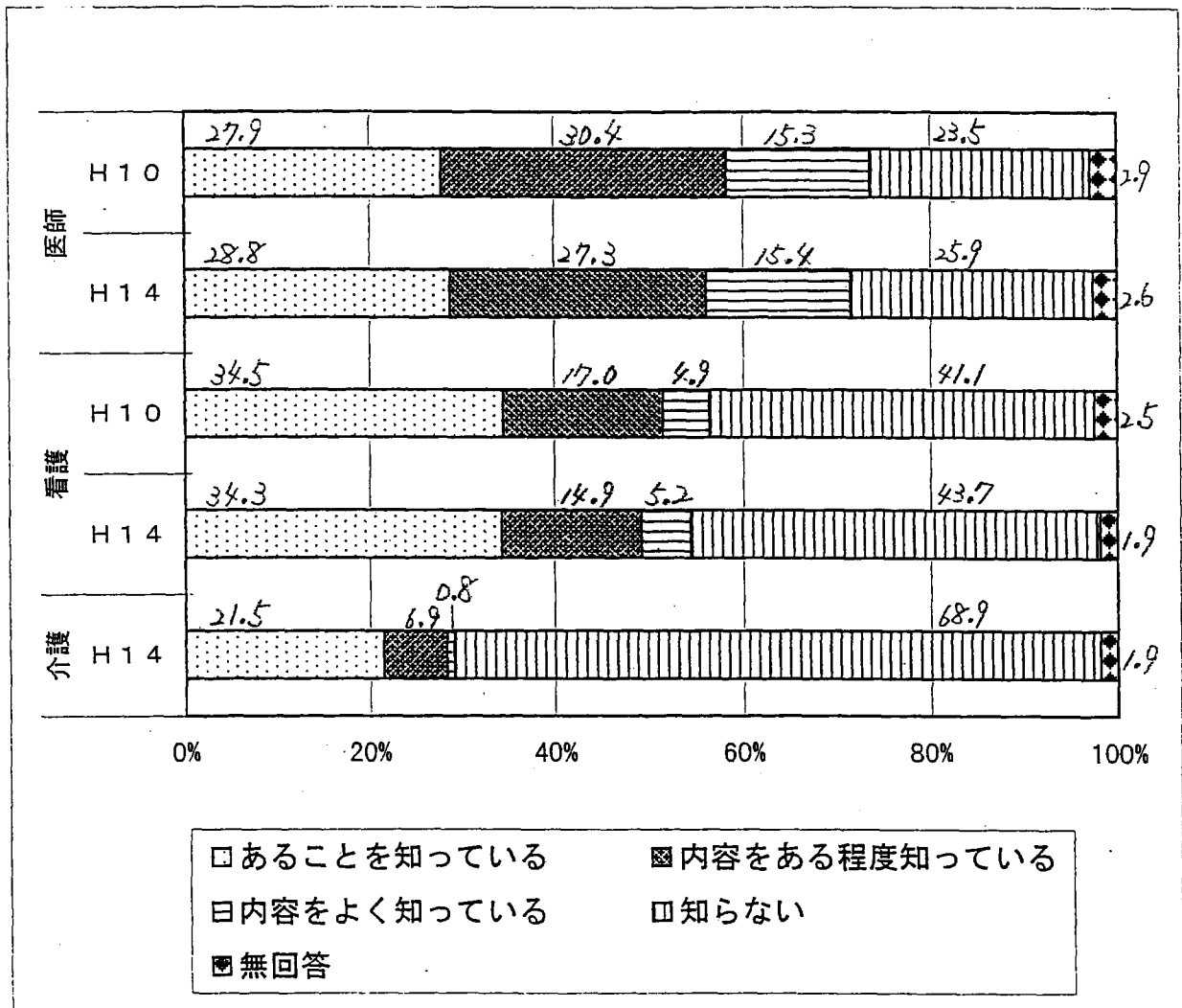


<疼痛治療法とその説明>

「WHO方式癌疼痛治療法」について「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員は、前回調査時点と比べて減少しており（医 43%（46%）、看 20%（22%）、介 8%）、介護施設職員では、「（あることも）知らない」者が 69%を占める。

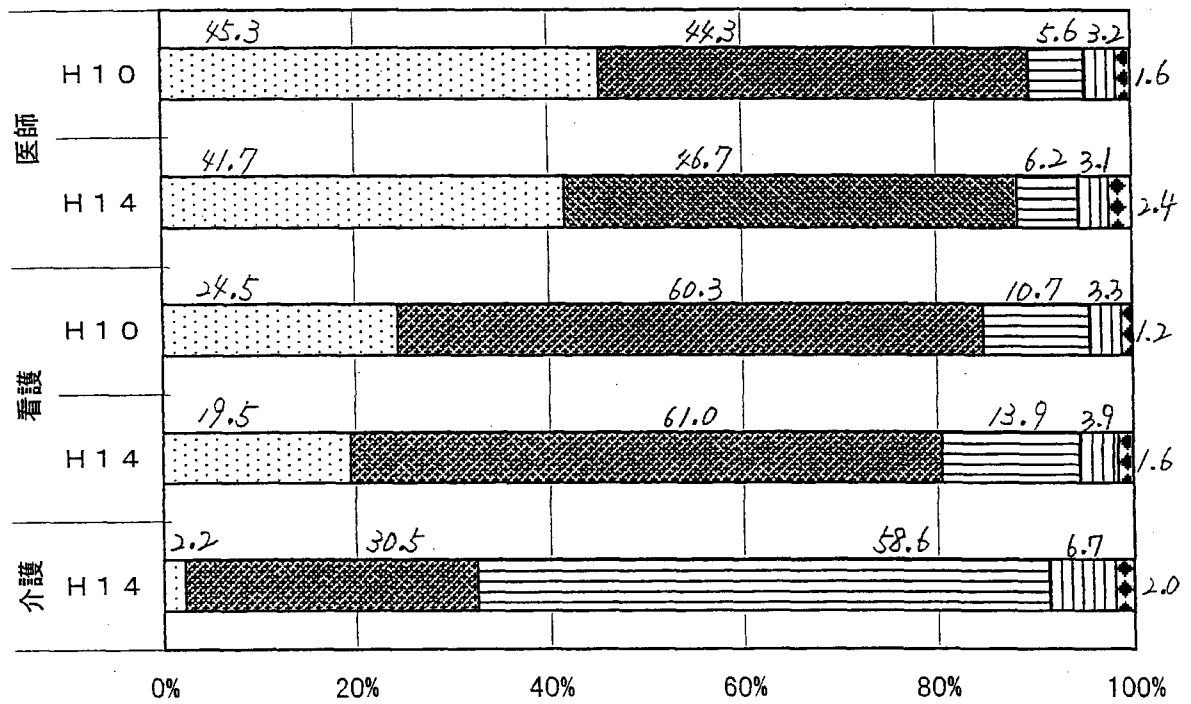
あなたは世界保健機関（WHO）が作成した「WHO方式癌疼痛治療法」をご存じですか。
 (○は1つ)

問の番号 医師 9-1 看護 9-1 介護 9-1



モルヒネの使用に当たって、有効性と副作用について患者にわかりやすく具体的に「説明できる」と回答した医師、看護職員は減少しており（医 42%（45%）、看 20%（25%）、介 2%）、介護施設職員では 59%が説明できないと回答している。

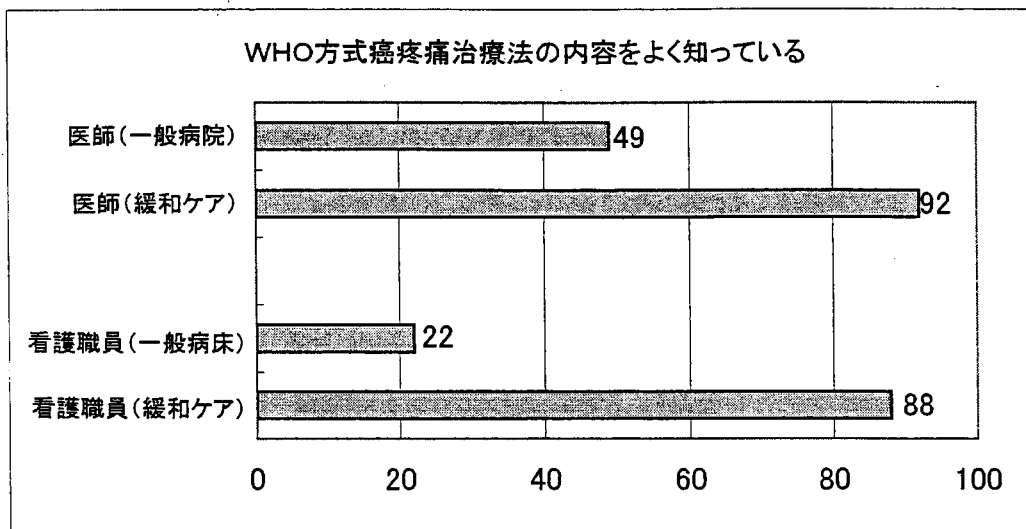
問 あなたは、モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者にわかりやすく具体的に説明することができますか。お考えに近いものをお選びください。
 （○は1つ）
 問の番号 医師 9-2 看護 9-2 介護 9-2



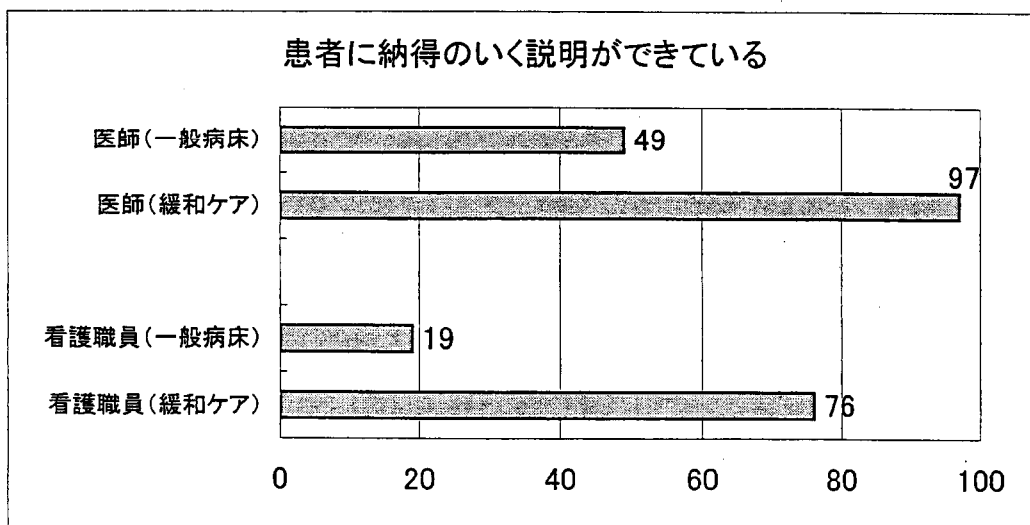
□説明できる ▨多少は説明できる ▩説明できない ▪わからない ▫その他・無回答

緩和ケア病棟においては、「WHO方式癌疼痛治療法」について、「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員の割合は（医 92%、看 88%）であり、一般病床（医 49%、看 22%）に比べて多く、モルヒネの有効性と副作用について患者に分かりやすく具体的に「説明できる」医師、看護職員の割合（医 97%、看 76%）についても、一般病床（医 49%、看 19%）に比べて多くなっている。

「WHO方式癌疼痛治療法」について、「内容をよく知っている」「内容をある程度知っている」医師、看護職員の割合



モルヒネの有効性と副作用について患者に分かりやすく具体的に「説明できる」医師、看護職員の割合

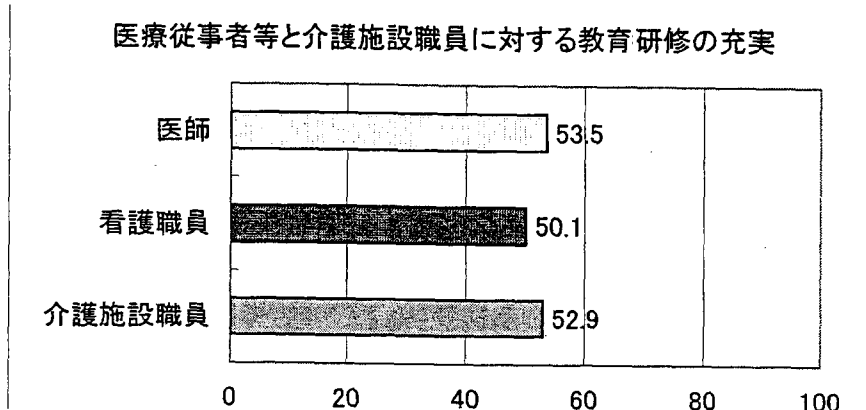
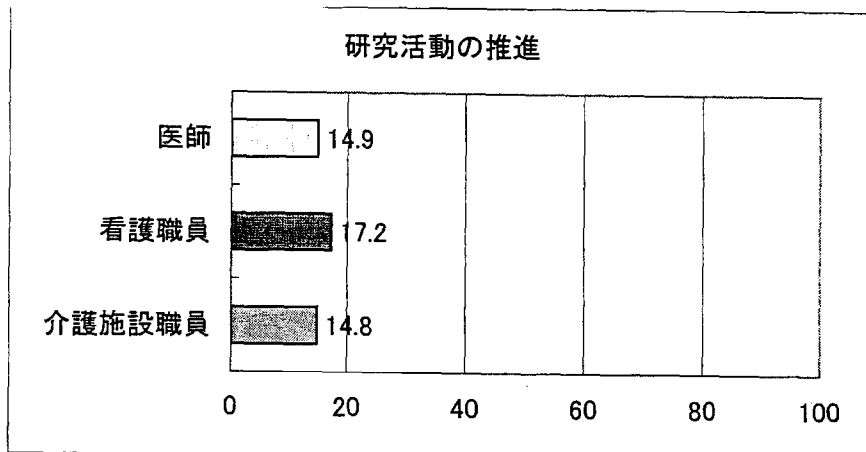
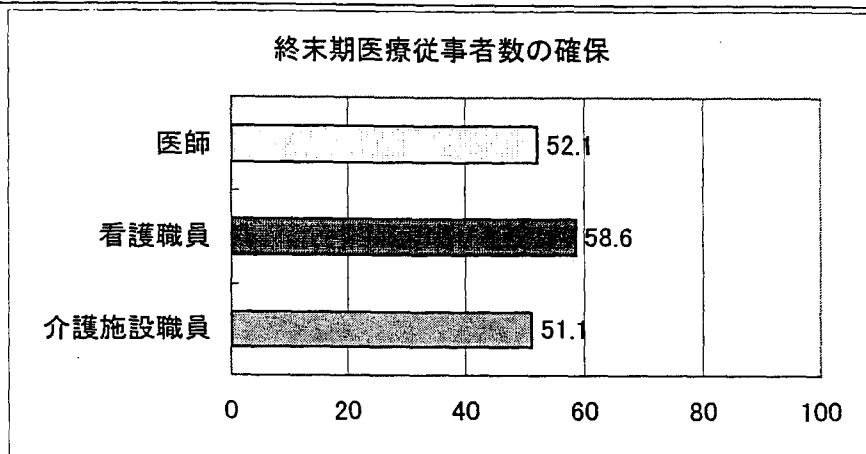


＜終末期医療体制の充実＞

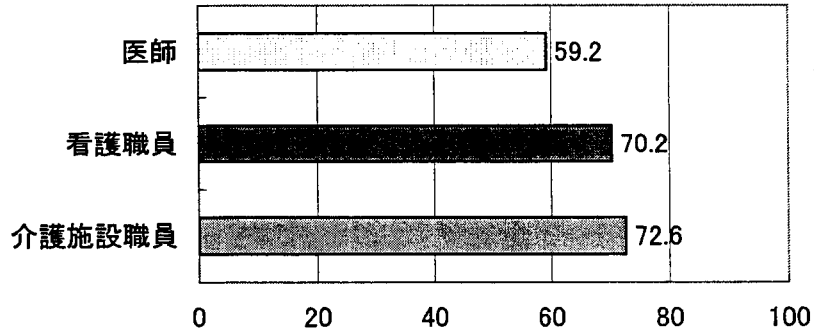
終末期医療の普及のために充実していくべき点について、医師では、「在宅終末期医療が行える体制づくり」をあげる者が最も多く、次いで「患者、家族への相談体制の充実」、「医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や障害研修の充実」をあげる者が多い(各々63%(48%)、59%(54%)、59%(63%)。看護職員では「在宅終末期医療が行える体制づくり」をあげる者が最も多く、次いで「患者、家族への相談体制の充実」、「緩和ケア病棟の設置と拡充」をあげるものが多い(各々76%(57%)、70%(69%)、59%(65%)。介護施設職員では「患者・入所者・家族への相談体制の充実」、次いで「在宅終末期医療が行える体制づくり」、「医師・看護師等医療従事者や、介護施設職員に対する、卒前・卒後教育や生涯研修の充実」をあげる者が多くなっている(各々73%、69%、53%)。

問 あなたは、終末期医療の普及に関し、どのようなことを充実していくべきだとお考えですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(○はいいくつでも)

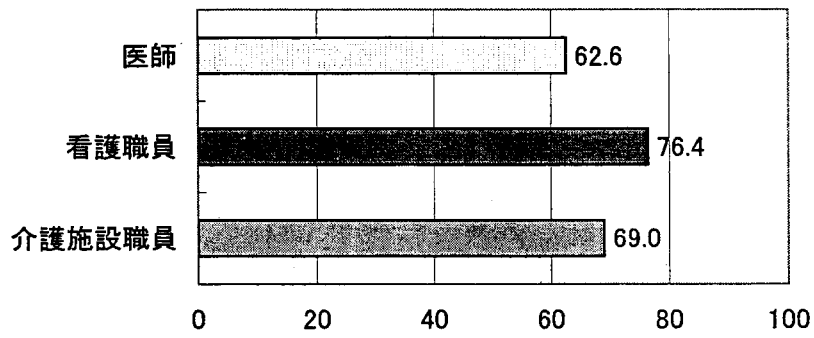
問の番号 医師18 看護18 介護18



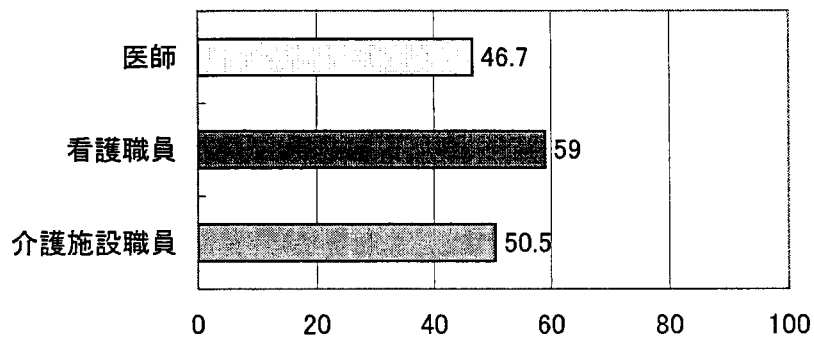
患者・入所者、家族への相談体制の充実



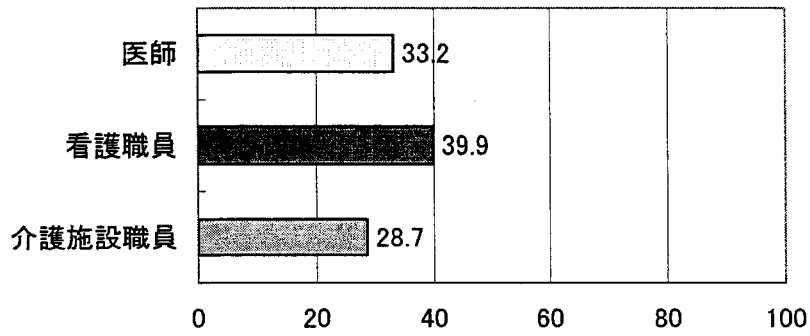
在宅終末期医療が行える体制づくり



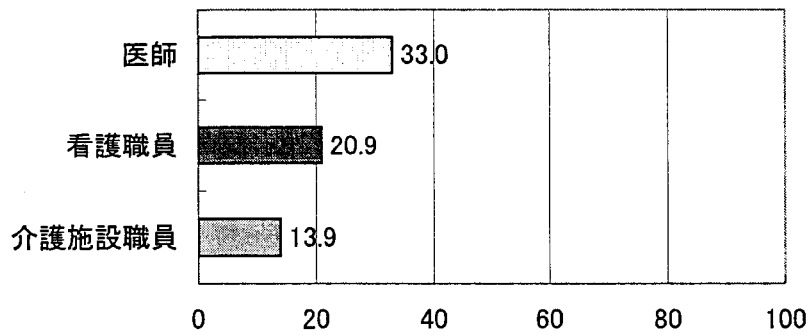
緩和ケア病棟の設置と拡充



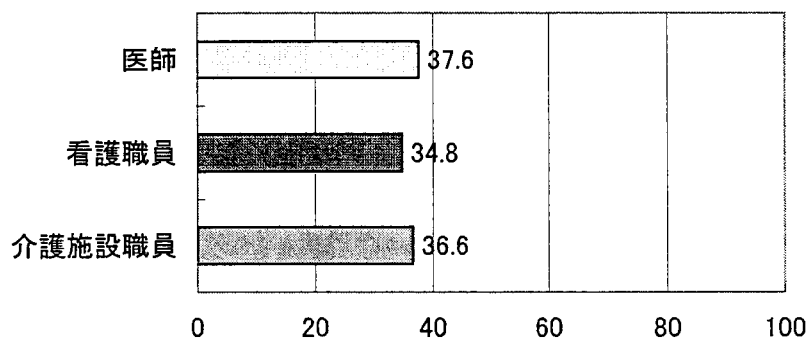
一般病棟での終末期医療が行えるの体制づくり



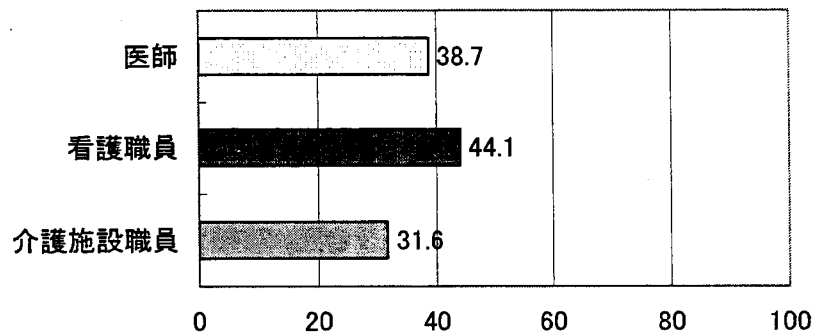
一般市民に対する教育活動



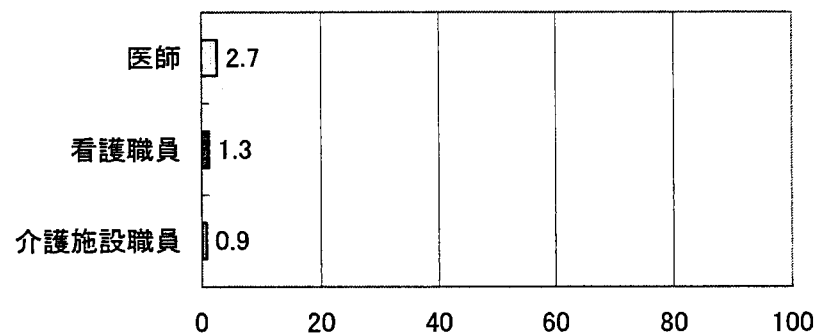
意思表示の事前文書などの法的整備



終末期医療への経済的評価



その他



特になし

